

法政大学 グローバル教養学部設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

1. 教育研究上の理念・目的

(1) 21 世紀のグローバル研究・教育

環境問題や平和問題をはじめ、地球規模の連帯が強く志向される現在、国家や地域、あるいは民族や地域文化の枠を超えて、グローバルな視座に立つ発想が求められている。従来の「国際研究」(International Studies)の多くが、主に自国と他国、自文化と異文化を比較・対照することで、それぞれの特徴や差異を明示化し、両者の相互関係や重層性を論じるものであったとすれば、本学部が提唱するグローバル研究(Global Studies)は、多様な文化・社会事象を、地球全体が直面する問題として、あるいは現代世界が経験している新たな変化傾向として捉え、その分析と解決の道を探ることに主眼を置いている。ところで、情報メディアと交通技術の目覚ましい発展は、高速かつ大規模な情報の伝達と人的移動を可能にし、その結果、情報交換と文化的接触の機会は飛躍的に増大することになった。この新たな時代にあつては、あらゆる文化情報が瞬時に地球の隅々まで伝えられ、さらには文字通り地球的基準で論じられ、評価されるという特徴を併せ持つ。それゆえ、グローバル研究においては、データの収集や研究成果の発信を地球共通の言語媒体により、また地域間の時間差を可能な限り縮める形で行うことが不可欠となる。迅速性と正確性、広範性という情報伝達の本質を追及する時、研究活動のみならず、その成果の教授の場においても、英語の使用が必然の帰結となるであろう。しかし、翻訳を介せず英語のみで学部教育を行うという試みは、我国では依然として皆無に近い状態にあり、本学部がその先駆的教育機関のひとつとなることを目指している。【資料 1：グローバル教養学部概念図】

(2) 21 世紀の学際研究・教育

グローバルな視点で現代社会の諸問題を読み解くためには、閉ざされた学問体系に基づく教育では限界がある。既存学問の分野枠を維持し、新生の事象を関連領域としてその周辺部に位置づけるという、従来型の研究・教育形態では、もはや正当に扱いきれないテーマが急速に増大しつつある。この傾向は、すでに数十の学科・コースを擁する米・英の大規模な総合大学が、毎年のように新学科を発足させている事実からも自明であろう。刻々変貌する問題系を既存分野の枠組みに拘らず、学際的視点から領域横断的に捉えることが必要となる。グローバル研究・教育が地域と文化の境界を超えるアプローチとすれば、学際研究・教育とは既存の研究・教育の枠を超えるアプローチと言える。高いコミュニケーション能力を身に付け、グローバル化する社会と文化の諸相を相互の関係性の中でトータルに捉えることこそ、21 世紀に求められる真の教養であろう。それゆえ本学部が称する「教養」とは、従来の人文学・社会学系学問の再編成と新たな総合性を目指すものであり、学部の英語名に Interdisciplinary (学際) を冠する所以である。

本学部が教育組織として研究対象とする中心的な学問分野として、「社会」の関連領域について

は、社会学、心理学、統計学、コミュニケーション論、メディア論、英語圏各国の地域研究などが挙げられる。「文化」領域は、英・米文学、日本学、演劇論、映画論、音楽学、ポップ・カルチャー論などの基盤に立ち、「言語」関連の領域では、英語学、社会言語学、比較言語学、翻訳論、第二言語習得論、英語教育学などを主に扱うことになる。ここに極めて多彩な学問名が列挙される事実こそが、本学部が謳う学際教育 — 新たな教養教育を物語っていると言えよう。

(3) 英語イマージョン教育の有用性

本学部が目指すこのような教育のためのツールが、高度な英語運用能力であることを再度強調しておきたい。英語はすでに 80 を超える国と地域の公用語となり、特定地域に限定された民族語としての域を超え、政治、ビジネス、学術の最先端を担う、事実上の世界の共通語となっている。正確で良質な情報があらゆるメディア上を行き交う今、例えば衛星放送やインターネットを通して、十分な英語力を有する者は誰でも、刻一刻と変化し続ける世界の状況にリアルタイムにアクセスできるのである。本学部は学際的な研究方法の修得とともに、英語運用能力の育成をとりわけ重視する。そのため英語イマージョン教育を採用し、講義やゼミは原則すべて英語で行う。また、プレゼンテーションやディスカッションを中心とした少人数編成の授業を行い、学生一人一人の能力、適性、ニーズに合わせたきめ細かい指導を実現するが、これは第二言語習得論の観点からも極めて有効と考えている。

英語イマージョン教育のもうひとつの狙いは、単に英語を対象語学として学ぶだけでは身に付かない、英語そのものに内在する批判的・抽象的思考能力の習得である。具体的な諸現象の中から主体的に問題点を見出し、それに関する多様な肯定・否定の議論を読み、聞き、批評しながら理解を深めていく。さらに自分の立場を確定した上で、自らの主張を論理性と説得力を持って表現し、問題解決のための建設的な提案を行う。多くの学生にとっての母語は日本語であり、日本語を用いて思考する場合、無意識であるにせよ知識・論理・発想も母語の影響下で定型化される傾向があるが、第二言語である英語で読み、書き、聞き、話す行為を繰り返すうちにそのような傾向は相対化され、客観的に自らを捉えることが可能となるはずである。このような研究姿勢の形成にも英語イマージョン教育は大きく貢献するであろう。本学部で導入するスタディ・アプロード (SA) に、同じ効果が期待できることは言うまでもない。**【資料 2 : グローバル教養学部における英語イマージョン教育】**

(4) グローバル研究・教育の拠点

この新しい時代に対応する学部が、日本の経済、政治、文化の中心である都心、千代田区に設置されることは大きな意味を持っている。本学市ヶ谷キャンパスの周辺には、世界各国の大使館をはじめ、ブリティッシュ・カウンシルや日仏学院などがあり、最も活発な異文化交流の地、躍動的な文化創造の場として知られている。グローバル研究の拠点としてこれ以上のロケーションはなく、学生の教育に資するところ大であろう。また、近隣には国際的企業の本社や外国企業の

日本支社も数多く置かれているが、広い視野と知性に裏打ちされ、高度の英語力を誇る卒業生の進路としても、これら企業と本学部との関係は将来一層深まっていくものと期待される。

2. 人材育成と進路

本学部の教育目標は、現代のグローバル化する国際社会の様々な領域において、豊かな教養と識見を背景として、高度な英語運用能力を持って活躍できる意欲的な人材の育成である。それは問題発見能力、問題解決能力、そして高いコミュニケーション能力を持つ人材であるが、これは現実的問題を解決するために、構想し、立案し、それを実現・実行する実務的な能力の基礎となるものである。

具体的には次のような能力を身に付けさせることを目標としている。

(1)基礎的な能力の養成

問題発見能力：グローバルな視点と学際的な研究により、文化・社会の変化・動向を理解し、その知識に基づき日常的具体的出来事から、真の問題を発見する能力。

創造的な発想：学際的な思考能力により、固定したものの見方にとらわれない、異質なものを結びつける、横断的かつ創造的な能力。

問題解決能力：英語の多様な論議を読み取り、実務の世界の具体的出来事を、分析力を持って整理し、偏見や先入観にとらわれず、向かうべき方向性を見出す能力。

(2)文化、倫理、人間への理解力

人間の理解：心理学、コミュニケーション論などを通して、個人と個人、個人と組織、個人と社会の関係を学ぶことにより得られる、様々な組織における人間関係や人材の管理等に必要な能力。

異文化の理解・尊重：グローバル化した世界における、異民族・異文化・異なる風土に対する想像力、敬意、知識、共感力などの、政治やビジネスの世界においても不可欠な能力。

社会的責任、倫理的姿勢：最先端の議論に精通し、世界基準のアカウンタビリティのあり方を理解して、それによって企業、国際機関、NGOなどの現代化に貢献できる能力。

(3)コミュニケーション能力・実務能力

コミュニケーション能力：会話やプレゼンテーション、議論やディベートに関わる能力。また相手の論点を正確に理解し、論理的な文章を書く能力。一般的な企画と立案の能力。

実務能力：上記の問題発見・解決能力、自由な発想、社会的責任、コミュニケーション能力による実務処理能力。

これらの能力を身に付けた、真の教養に裏打ちされ、地球的規模で発想することができる、発信型の人材育成を目指す。卒業後の進路としては、次のようなものが挙げられる。

民間企業：海外展開型の企業、多国籍企業、外資系企業、航空、旅行、ホテル観光業など高度

な英語力を要する分野。またジャーナリズム、NPO、NGO など自由な発想と領域横断的な能力が活かせる分野。

公務員：外務省やJICA、国際援助機関の職員や国際公務員など。

教員：私立・公立学校・専修学校の英語教員。特に、自らの経験と知識を活かして、英語イメージ教育の立案・推進に参加できる人材。

研究職・専門職：国内外の大学院への進学者。国連関連諸機関や海外企業への就職には、英語圏の大学院修了が実質的な応募条件となることが多い。研究職は勿論、これらの専門職を目指す学生も念頭に置き、海外大学院への進学希望者には重点的な支援を行う。

イ 学部、学科の特色

グローバルな視点と学際的アプローチが、本学部の教育基本理念の両輪と言える。その達成のため、徹底した英語イメージ教育と少人数教育を導入する。これは本学部の先駆けとして2006年に発足した、文学部英文学科・日本文学科、国際文化学部国際文化学科、経済学部国際経済学科の3学部4学科から構成される学部横断型の国際教育プログラム、IGIS (Institute for Global and Interdisciplinary Studies：グローバル学際研究インスティテュート) から継承する特色である。

【資料3：グローバル教養学部における学び】

【資料4：グローバル教養学部 カリキュラム表】

1. 英語イメージ教育

英語イメージ教育こそ本学部の最大の特徴である。講義やゼミは原則すべて英語で行われる。英語と一般教科の教育が統合されており、実践的な状況において英語教育が行われ、英語で考える環境の中で、4つのスキルズ（読み、書き、聞き、話す能力）を一度に育成することができる。動機付けの点でも、そこにおいては英語学習と同時に当該科目の学習意欲が加わり、より高い教育効果が生じるはずである。英語イメージ教育はまた、異文化、マナーへの敬意を育てることが期待される。本学部は既存の学部横断型インスティテュート (IGIS) を基盤としてその発展形として学部化されるが、その2年間の経験から、新学部においても入学生の英語力は非常に高く、入学以前に海外生活を経験している者が多いと予想される。英語イメージ教育による授業形態は、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SELHi) や国内外のインターナショナル・スクールの出身者、あるいは長期の留学経験者の増加に対応するものでもある。なお、地球規模での英語の多様化を踏まえて、本学部の教員は特定の英語国出身者に偏らず、また優れた英語運用力を有する限り、母語話者のみに限定されることもない。

2. 少人数教育

本学部において英語イメージ教育と少人数教育は不可分の関係にある。一学年50名という入学定員数は他学部に見えない少数であり、ほとんどの授業の履修者もそれに比例して10名か

ら 30 名程度になると予想される。英語イマージョン教育による一般教科の学習では、多くの英語文献の消化、ディスカッションやプレゼンテーションが前提となるが、そこでは学生の英語能力に合わせた、きめの細かな指導が不可欠である。少人数授業における懇切丁寧な指導と、学生と教員の緊密なコミュニケーションは、学部理念の実現に向けて極めて高い教育効果をもたらすであろう。

3. 一般教養教育と専門教育の融合

不断に変化し続ける現代社会と文化の現実には、特定の学問領域のみに限定された研究方法では十分に扱えないとの認識から、本学部は学際的なアプローチを実践する。従来の専門教育が、一貫性や整合性を重視し、体系化され閉じられた学問領域を扱い、一般教養教育が学部の枠を超えた広い知識と教養を授けるものであったとすれば、領域横断的な本学部のカリキュラムには、両教育の理念が融合していることになる。また、外国語教育が一般教養教育の重要な一部を成している点を考慮すれば、英語で教授されるすべての授業に、一般教養科目の要素が必然的に組み込まれているとも言えよう。

4. 英語教職課程

他大学の国際教養系学部との対比として、本学部の際立つ特徴の一つは教員免許の取得が可能なことである。従来の英語教師の育成法は、必ずしもグローバル化する社会のニーズに対応し切れていない部分があった。伝統的英語教育への批判、長期にわたる留学経験を持つ生徒の増加、あるいは中等教育における英語イマージョン教育への関心、さらには学校・地域レベルで活発化する国際交流などを考慮して、本学部では、真に国際感覚を持った「英語が使える英語教師」の育成を目指す。本学部のイマージョン教育で養成される高い英語運用能力、英語的思考やクリティカル・シンキングの習得、グローバルな文化・社会現象の深い理解などは、新しい時代の英語教師に不可欠の要素に違いない。

ウ 学部, 学科の名称及び学位の名称

本学部学科は「グローバル教養学部」と称し、「グローバル教養学科」の単一学科から成る。この名称は本学部の理念を端的に表すものと自負している。英文名称はそれぞれ、

Faculty of Global and Interdisciplinary Studies (グローバル教養学部)

Department of Global and Interdisciplinary Studies (グローバル教養学科)

とする。

学位は「学士 (国際教養学)」である。英文名称を、

Bachelor of Arts (Liberal Studies)

とする。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学部は、イマージョン教育によって習得した高度の英語運用能力を背景とし、柔軟な発想と高いコミュニケーション能力を持って、現代のグローバル化した世界の多様な問題に対応できる人材の育成を目標としている。学部の教育は効率的に能力を養成するものでなくてはならず、そして養成された能力は実社会で役に立つものでなければならない。その観点から、教育課程は次のことに重点を置いている。

1. 導入教育から4年間の一貫教育

少人数制による、学生と教員の緊密なコミュニケーションのもとに、学習に対する姿勢、生涯にわたって学ぶことの必要性を説く。専門科目と一般教養科目の区別のないカリキュラムで、学際的で自由な発想を育成するとともに、英語イマージョン教育により英語運用能力の高度化を目指す。

2. 適切な量の科目に対して、十分に手厚く高品質な教育

各学生が必要とする科目を絞り込み、その科目の内容が十分に理解され身に付くようにする。特に1年次には、入学時の英語力をさらに発展させるため、「アカデミック英語 (EAP)」を機軸に集中的な英語科目を置く。少人数クラスで各学生の能力に応じた手厚い指導を行う一方、強いコミットメントを要求し厳しい履修要件を課す。

3. 基礎から専門への連携

本学部生は、1年次の必修科目「グローバル・スタディーズ (Global Studies)」で得た各自の問題意識に従い、「社会とアイデンティティ」「芸術と文化」および「言語学と言語習得」の3つの科目群から自由に科目を選択履修することができる。各科目には100レベルから400レベルまでレベル表示が付されており、知識を段階的に高められるように工夫されている。400レベルの演習科目で執筆する演習論文(ゼミ論)は、学部4年間で育成した専門知識、英語力、論理的構成力の集大成である。

4. セメスター制を活かした教育体制

多彩な学際科目を効率よく学ぶため、本学部ではすべての科目がセメスター(半期)開講となっている。短期間の集中的な履修は、学習の連続性保持に有効であるばかりでなく、スタディ・アブロードをはじめとする海外での単位修得も容易にする。

5. 海外教育機関で得られた単位の積極的認定

本学部独自のスタディ・アブロードをはじめ、法政大学の派遣留学生制度、認定海外留学制度、私費による留学などにより、海外の高等教育機関で履修した科目に対して積極的に単位を認定する。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

本学部は、既存の学部横断型国際教育インスティテュート (IGIS) を基盤として、明確な理念の下に発展独立したものであり、IGISの中核を成していた教員の多くが、本学部に専任教員とし

て移籍する。本学部では英語イマージョン教育を基盤とするため、任期付教員を含む専任教員計10名中の3名を英語母語話者としている。また、英語を母語としない教員も、長期に亘る海外の研究活動歴に加え、イマージョン教育に相応しい高度な英語運用能力を有している。特に英語がヨーロッパやアジアの事実上の公用語として、あるいは地球全体の国際補助語として確立しつつある現況を考える時、アメリカ、イギリスは勿論、それ以外の地域の英語の発音に触れることも、グローバル研究・教育の観点から必須の経験と言える。

また一方で、地球規模の普遍的な諸問題を研究する際にも、英語圏の文化・社会の理解は欠くことのできない重要なファクターである。その目的のために、本学部ではイギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、香港など、多様な出身地や研究領域をバックグラウンドとして持つ専任教員を揃えている。

専任教員の資格及び取得学位は以下の通りである。

教授 6名（博士2名、博士課程満期退学者2名、修士2名）

准教授 1名（修士1名）

助教 3名（博士3名）

61歳以上 1名

51歳～60歳 5名

41歳～50歳 1名

31歳～40歳 3名

他に英語母語話者9名を含む、計22名の兼任・兼任教員がカリキュラムを支えている。

なお、兼任・兼任を含めた全教員32名の英語母語率と出身地は以下の通りである。

英語母語話者 12名（アメリカ、イギリス、香港、カナダ、アイルランド）

第二言語としての英語話者 20名（日本、ドイツ、ベルギー、ハンガリー、中国）

力 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件

【資料5：履修モデル】

1. 基礎科目 (100-level Foundation Courses)

(1) 基幹科目 (Core Subject)

基幹科目「グローバル・スタディーズ (Global Studies)」は、学際研究を主眼とする学部の理念を示す必修科目である。前期セメスターに、本学部の専任教員が毎週交替で、地球全体が直面している多様な事象やグローバル化の影響下の諸問題などを、それぞれの専門分野との関連で講義する。言語、ジェンダー、教育、メディア、演劇、映画、文学など、個別分野への導入

の役割を果たすと共に、地球的規模で生じている現象の実態を学習する。必修科目として、基本文献を紹介することで学生の興味を喚起しながら、導入レベルの知識、概念の習得の徹底を図る。この基幹科目は学生に科目相互の関連性を意識させ、学部全体のカリキュラムの見取り図となることを目指すもので、学際研究のオリエンテーションの場と位置づけられる。

(2) EAP 科目 (EAP Subjects)

EAP 科目は、本学部の英語イマージョン教育の基礎を成す導入科目である。これは単なる英語能力の向上に留まらず、ノート・テイキング、図書館の活用法、効果的なプレゼンテーション技法の習得など、所謂「基礎ゼミ」としての役割も併せ持っている。EAP 科目の中心である「アカデミック英語 A I/II, B I/II, C I/II (English for Academic Purposes A I/II, B I/II, C I/II)」は、有機的に結びついた3つのクラス授業から構成され、それぞれ「リーディング」「ライティング」「リスニング・スピーキング」の各スキルに焦点をあて、その習熟を図るものである。リーディングについては、前期には国内外の高等教育で求められる速度と正確さで英語テキストの大意を読み取り、内容をクラス内で議論する訓練を行う。後期には、分析的・批判的な読み方など、題材やジャンルに応じた読解法の習熟を図る。ライティングの授業では、基本的なパラグラフ・ライティングから始めて、定義、分類、比較対照、議論といった学術記述に不可欠な論述技法を身につける。1年次終了時までには、しかるべき引証や参考文献を網羅した学術文が執筆できるようになるはずである。最後にリスニング・スピーキングのクラスは、狭義の聴解力養成を超えて、ディスカッションや口頭によるプレゼンテーションなど、演習や学会発表で要求される受信・発信技術を扱う。

他に選択のEAP科目として、「英語検定試験対策特講 I/II (English Test Preparation I/II)」が置かれている。この授業はTOEFL®, IELTS など国際的に評価の高い外部テストの効率的な得点向上を目指す、実践訓練である。

(3) 拡充科目 (Adjunct Subjects)

問題を同定しその原因を探り、さらに問題解決のための適切なアプローチを見出す思考。論証を強固なものとするための様々な統計処理。いずれも研究の領域を問わず必要とされる知の基本技法である。その要請に応えるべく、ここの科目群には「統計学 (Statistics)」と「クリティカル・シンキング (Critical Thinking)」を設置している。他にも「コンピュータの基礎 I/II (Information Technology I/II)」, 「ウェブサイト構築 (Website Construction)」, 「法学概論 (日本国憲法1単位を含む) I/II (Law I/II)」, 「スポーツ I/II (Physical Education I/II)」等の、多様な科目を用意している。刻一刻と変化する世界の動きをリアルタイムで捉え発信する技能を育成するため、情報リテラシーにかかわる科目は特に重点的に配置している。

2. 入門・中級・上級科目 (100/200/300-level Introductory, Intermediate and Advanced Courses)

学際的視座に立つ本学部は、人間の主たる営みとしての「社会とアイデンティティ」、「芸術と文化」そして「言語学と言語習得」に関連する以下の3つの科目群をそれぞれ100から300レベルに、さらに最も注目を集めているテーマを扱う「スペシャル・トピックス I/II (Special Topics I/II)」を300レベルに設定している。しかし、これはあくまで便宜上の括りにすぎず、科目群の間に研究領域の明確な境界を想定しているわけではない。学生は枠にとらわれず、各人の興味と先行知識に合わせて自由に科目を選択できる。

(1) 「社会とアイデンティティ(Society and Identity)」科目群

この科目群では社会学、心理学、あるいは関連する社会科学の観点から、グローバルな問題やグローバル化の結果生じた問題を理解・分析する。授業は講義形式であるが、少人数クラスの利点を最大限に活かして学生の主体的な参加が常に求められ、また学生がイニシアティブを取る様々なプロジェクトも企画・立案されよう。各講義では個別のトピックを取り上げ、それを概観した後、より本質的・普遍的テーマへと焦点を絞る。学生をより深い考察へと導き、講義を補足するため、関連する論文や記事を読み、レポートを書く作業も重視される。与えられたテーマについて教員と受講生が、あるいは受講生同士が活発に意見交換する授業形態が、この科目群の学びの過程では不可欠である。また習得した理論や方法に従って、学生は実際にリサーチを行うこともある。

100レベルの科目は導入的な概論であり、この科目群のコアとして、またグローバルな問題を分析する際に必要な主概念や研究法を紹介する。100から200、そして300レベルへと進むにつれて、同じ事象をより高度に、より重点的に考察していくことになる。一例を挙げると、1年次に「社会学概論 (Understanding Society)」と「社会学研究法 (Social Research in Practice)」を履修した場合、社会分析の概念や基本理論を家族や教育、あるいはジェンダー・人種・社会階級などの問題を通して理解する。加えて、社会調査を行うスキルも習得することになる。2年次以降の「人種・階級・ジェンダーI/II (Race, Class and Gender I/II)」では、これらの問題系を社会の、ひいては地球全体の観点から考察する。あるいは「ジェンダーから見た日本社会 (Gender: A Perspective on Japanese Society)」を履修すれば、ジェンダーをめぐる様々な問題についての認識が一層深まるであろう。一方、「英語圏地域研究 A/B (Regional Studies A/B)」は、英語圏の特定の国・地域を取り上げ、地理、民族、宗教など基本的知識から、同時代の政治・経済・社会などの時事的現象に至る問題を、グローバル化の影響を視野に入れながら学習する。一つの国・地域の特定の事例を具体的に学ぶので、他科目における諸問題の抽象的議論の理解を助ける役割を持つ。また2,3年次のスタディ・アブロードの準備科目としても有用であろう。

(2) 「芸術と文化(Arts and Culture)」科目群

従来は時空間的に離れていると思われた人々や事象が、テクノロジーの発展により、結び合い、関連し、交錯し合う。とくに文化・芸術の領域は越境の度合いが激しい。そうした状況に

あって、異文化と自文化に対する客観的な知識と理解を求めようとすれば、そのベクトルは局地的でありながら同時に世界的にならざるを得ない。のみならず、こうした混成化がすなわち均質化でもあり、問題はその均質化がどのような方向性を持つのか、その権力ダイナミックスに自覚的であることが今後ますます求められるだろう。

100 レベルの入門課程は、上記の立ち位置を保ちながら、演劇や小説、写真や音楽、あるいは大衆文化の一部としてこれまでの学問領域にはなじまないとされてきた娯楽小説を題材とし、文化考察への導入とする。200, 300 レベルでは演劇、小説、映画などについて、100 レベルで触れた領域ごとにトピックを設定し、それらが各論として展開される。領域を横断する学際的な科目の一例としては、小説と映画の関係を論じた「映画の真実と虚構 (Fact and Fiction in the Movies)」が挙げられよう。

ところで日本の文化・芸術は、いまやグローバルな視座から最も活発に議論される対象となったといえるであろう。この世界的な研究の潮流を踏まえながら、わが国の文化・芸術を学び、世界文化に貢献する発信型の研究と教育を目指す。100 レベルの「日本の芸術と歴史 (Japanese Art and History)」で基本概念を学び、200, 300 レベルの各論で、具体的な作品の分析等を行い、理解を深めていく。例えば、現代日本のマンガ、アニメーション、デザインなどが、縄文時代以来の伝統美術からどのような影響を受けてきたかを考察する「現代メディアで学ぶ日本美術史 (Learning Japanese Art History through Contemporary Media)」もこのコースの一例である。

すべての授業は少人数であることをフルに活用し、学生の主体性を重視した双方向の「講義」ならびに「討論」「口頭発表」「実習」や「実演」が混成した形で進行し、必要に応じてマルチ・メディア対応の特別教室を使用し、国内外の映像・音楽資料も援用する。教員も学生と共に文化をめぐる世界状況の複雑さを認識し、さらに日常へと積極的に介入することが、この科目群の最終目的である。

(3) 「言語学と言語習得 (Linguistics and Language Acquisition)」科目群

この科目群のテーマは2つある。ひとつは、地球語と呼ばれて久しい英語の言語学的な諸相を論じることである。これは、100 レベル科目で英語史の概要をはじめ、音声学と音韻論、形態論と統語論、意味論と語用論といった、現代言語学の中心を成す諸分野の基本概念を学ぶことから始まる。200, 300 レベルでは、それぞれの概念についての理解をさらに深化発展させると共に、応用言語学を含めた様々な関連領域にも目を向ける。特に近年目覚ましい発展を遂げている社会言語学、交通・通信のグローバル化とともに関心が高まっている英語の多様性の考察には十分な時間を割きたい。発音面では、AV 機器を多用して変種間の違いを実際に知覚する訓練も行う。また、応用領域として翻訳・通訳技術についても実践的な授業を300 レベルに用意している。

この科目群のもうひとつの主題は、第二言語習得理論の知見を踏まえ、新しい英語教育の可能性を探ることである。第二言語学習者の言語習得、ならびに言語処理・理解のメカニズム解

明を目指す研究の著しい発展により、第二言語学習に資する様々な新知見が報告されている。まずこれらの先行研究の成果を科学的に考察・検討することが、英語教育の新たな地平を開く第一歩となる。続いて、個々人の学習者要因を勘案したカリキュラム、シラバス、指導法、言語テストならびに評価法・教材を開発し、いかに効果的に第二言語習得・学習を可能にするかを考察する。また実践面でも、個々人が自分の研究・学習の目的やニーズに応じて第二言語習得・学習のプロセスをメタ認知できるように、また最も適切な第二言語習得・学習ストラテジーを主体的に発見できるように、常に教員が支援していく。

(4)「スペシャル・トピックス(Special Topics)」科目

100, 200 レベルの科目で習得した研究方法や諸概念・理論の理解を基礎として、最も注目されている特定分野について、ゼミ形式の授業を行う。ここでも学生の主体的な参加が求められ、授業はプレゼンテーションやディスカッションを中心に展開する。またフィールド・ワークや創作を行う場合もある。自らの表現を発信していくためのスキルに磨きをかける点においても、この授業は 400 レベル科目への格好の助走となるだろう。

3. 演習科目(400-level Seminar Courses)

3 年次と 4 年次に置かれる 400 レベルの演習科目では、導入の「グローバル・スタディーズ」および 100, 200, 300 レベル科目で習得した、社会、芸術、文化、言語をめぐる概念理解、理論、研究方法などを基に、各教員の指導を仰ぎながら、より特化したテーマを少人数で学ぶ。また、1 年次から継続的にイメージ教育により開発された英語の運用能力を、海外の大学院進学に活かせる程度にまで鍛えることも、このレベルの目標である。

演習は一学年 10 名程度、3 年生と 4 年生を合わせ最大 20 名程度の少人数制である。学生の主体的な参加が重視され、プレゼンテーションやディスカッションを中心に、基本的事項の確認と一つのテーマについての徹底性を持った深い学びの姿勢が求められる。学生は各演習内容と関連する独自の課題を設定し、3 年次の終わりに進級論文を提出、さらに卒業時には 4 年間の勉学の集大成としてゼミ論文を作成する。ゼミ担当教員による丁寧な論文指導を通して、研究・分析方法の習得と説得力のある論理的な文章の技法を学ぶ。同時にその過程における真の問題発見能力と問題解決能力の訓練も、ゼミにおける指導上の大きな目標である。

4. スタディ・アブロード(SA)

スタディ・アブロード (SA) は 2 年次後期もしくは 3 年次前期に 4~5 ヶ月間行われ、英語圏の提携大学において、現地の一般学生と共に学部課程の授業を履修するプログラムである。現地学生と同じ量の文献・資料を読みこなし、レポートを書くことで英語力は一層強固になることは勿論、生活体験を通して異文化理解を深め、国際人としてのマナーを身に付けるという点でも、絶好の機会となるであろう。なお、本学部は半期制を採用するので、年度途中で帰国した学生が

履修登録において不利益を被ることはない。

5. 教職課程(Teaching Diploma Course)

日本においては、英語イマージョン教育を実施している学部で教職課程が設置されているところは数少ない。中学校・高等学校の教職を目指す者が、イマージョン教育による高度な英語運用力とスタディ・アブロードを通じての国際感覚を基盤に、文字通り「英語で授業の出来る英語教員」として活躍できるよう、本学部は積極的に支援する。そのため本学キャリアデザイン学部主催の教職科目を履修させ、教育学・教育実践に関する幅広い基礎的知識の修得を図る。教職科目は卒業所要単位外の選択科目として、また、英語科教育法は必修科目として、それぞれ初級・中級・上級科目(100/200/300-level Introductory, Intermediate and Advanced Courses)に設置し、高度な英語運用能力に加え、英語教育学に関する基本知識と効果的な学習指導技術を統合的に体得させたい。

6. 進級・卒業要件

本学部では以下に示す進級・卒業要件を設定している。

(1) 進級条件

第1年次から第2年次へ進級するためには、年間12単位以上を修得していなければならない。第2年次から第3年次に進級するためには、第2年次に年間12単位以上を修得しなければならない。第3年次から第4年次に進級するためには、卒業に必要な単位数のうち、80単位以上を修得していなければならない。

(2) 卒業条件

卒業には、1年次の必修科目である「グローバル・スタディーズ(Global Studies)」と「アカデミック英語 A I/II, B I/II, C I/II (English for Academic Purposes A I/II, B I/II, C I/II)」の計14単位を含む、合計124単位以上を修得しなければならない。なお、教職科目は卒業所要単位に含まれない。【資料6：グローバル教養学部卒業要件】

キ 学外実習を行う場合の具体的計画

スタディ・アブロード(SA)は2年次後期もしくは3年次前期に4~5ヶ月間行われ、英語圏の提携大学が要求する英語力を持つ者が、現地の正規の学部授業を受講するものである。このプログラムは必修ではないが、本学部で修得した知識をより発展させ、異文化理解を深める重要な科目として位置づけ、また人間的成長の大きな契機となると考え、学生に積極的に参加を奨励する。提携大学はアメリカ・イギリスに加え、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドと英語圏各国に広く持つ。実施予定大学には、シェフィールド大学(イギリス)とモナッシュ大学(オーストラリア)が含まれる。本学は海外の多くの大学と活発な交流実績があるが、とりわけ両大

学とは長い提携関係を持っている。例えば、国際文化学部は 2000 年から、経済学部は 2003 年から独自のスタディ・アブロード・プログラムとして両大学の英語学習センターにそれぞれ 10 数名から 30 名程度の学生を恒常的に派遣している。また、前者の学部課程にも、本学の「派遣留学制度」により毎年数名の学生が学んでいる。本学が交換留学やその他の協定を結んでいる大学は他の英語国にも多数あり、これらを含めた「候補大学」とは、受け入れ契約調印に向けて鋭意交渉中である。

派遣先には 5 ヶ国 5 大学を予定しており、派遣人数はそれぞれに 5～15 名程度と想定している。提携大学の要求する、本学一年次における成績（GPA）と英語力証明（TOEFL®または IELTS）を基に、学生本人の希望も最大限考慮した上で、派遣先が決定される。受け入れ先となる大学には本学部生の管理に専念できる部署とスタッフを確保し、プログラム実施期間中は本学部と E メールにより定期的なコミュニケーションを行い、学生が充実し安全な留学生活をおくれるように配慮する。また、出国前には履修や生活上のアドバイス、さらに危機管理に関するオリエンテーションを実施する。その一環として学部教授会内に SA 委員会を設け、その委員長（SA 主任）は、大学全体の SA 関係事務を担当する「SA センター」と共に、留学に関わる学生のケアを統括する。なお、必要に応じて事務員あるいは教員が派遣先大学に赴き、迅速に問題を解決する体制も準備している。

SA の取得単位は、学部教授会の審査を経て、「スタディ・アブロード（Study Abroad）」最大 20 単位）として認定される。さらに本学の「派遣留学制度」や「認定海外留学制度」などを利用して留学した場合は、合わせて最大 60 単位まで卒業所要単位として認定される。

ク 施設、設備等の計画

本学部が、日本の経済、政治、文化の中心である都心、千代田区に設置されることは大きな意味を持っている。本学市ヶ谷キャンパスの周辺には、世界各国の大使館をはじめ、ブリティッシュ・カウンシルや日仏学院などがあり、最も活発な異文化交流の地、躍動的な文化創造の場として知られている。グローバル研究の拠点としてこれ以上のロケーションはなく、学生の教育に資するところ大であろう。また、近隣には国際的企業の本社や外国企業の日本支社も数多く置かれているが、広い視野と知性に裏打ちされ、高度の英語力を誇る卒業生の進路としても、これら企業と本学部との関係は将来一層深まっていくものと期待される。法政大学は、千代田区に主キャンパスをもち、最近、近隣の土地建物の買収により校地・校舎面積の拡充を図っている。本学部に必要な施設は、この校地・校舎面積の拡大を活用して整備する。

1. 校舎等施設の整備計画

市ヶ谷キャンパス内に平成 19 年 4 月に竣工した外濠校舎（約 22,000 m²）に本学部専用の教室を 2 室確保し、授業運営に不可欠な世界対応型の AV 機器を設置する。また、それ以外の教室についても授業時間割を基に算出した教室数・規模等の施設計画に沿って、既存施設の共用計画、改

修整備を実施する。なお、学部運営に必要となる学部長室、会議室、資料室は、市ヶ谷キャンパス内に整備する計画である。あわせて、現在、既存学部が利用しているメディアスタジオに世界対応の AV 機器を増設し、本学部の教職員と学生が利用しやすい環境に整備する。また、少人数教育の充実を図るため、教職員と学生がグループ学習や履修上の相談ができるような空間を確保する。

上記計画により配置する主な教室等施設は以下の通りであり、これらを年次進行に伴って整備予定である。

グローバル教養学部設置に伴う施設整備計画

#	施設	設備・備品	備考
1	教室 (30~35 人収容) ×6 室 (うちグローバル教養学部 専用教室 2 室)	液晶モニター DVD プレイヤー (オールリジョン) VHS デッキ (PAL 対応型) CD プレイヤー カセットデッキ PC・外部機器端末 上記機器収納コンソール	一体型の AV 機器コンソールを教室内に設置。 世界対応型 AV 機器を設置、グローバル教養学部の優先使用 (2 室は学部専用)。
2	遠隔講義室 (30~35 人収容)×1 室	遠隔講義システム (モニター, カメラ, システム一式)	
3	グローバル教養学部メディア スタジオ (既存学部と共用)	大型液晶モニター DVD プレイヤー (オールリジョン) VHS デッキ (PAL 対応型) CD プレイヤー カセットデッキ 高品位スピーカーシステム PC・外部機器端末 DVD-VHS 変換機器一式 簡易ビデオ編集機器 デジタルオーディオ編集機器 デスクトップ PC サイドデスク付イス 50 脚 簡易防音設備 遮光設備	AV 教材作成や授業準備用として使用する。 AV 機器を多用する芸術系 (映画論, 写真論, 音楽学) や音声学などの授業においても一部使用。
4	グローバル教養学部長室 (兼会議室)	学部長デスク 書棚 応接セット TV 会議用テーブル (14 人用) ホワイトボード	学部長執務の他, 定例・臨時の教授会・各種委員会用として常用。
5	グローバル教養学部資料室	職員執務設備一式 ロッカー テーブル・イス 教員メールボックス 書棚 (書庫) デスクトップ PC (Windows ×1, Mac ×1)	グローバル教養学部職員 (AV 技術者を含む) が常駐管理。

		プリンター スキャナー コピー機 書画カメラ（移動キャリア付） プロジェクター（移動キャリア付） 一眼レフ・デジタルカメラ（3台） 家庭用デジタルビデオカメラ デジタルデンスケ（Sony PCM-D1） 教員・学生貸出用ノート PC（15台） MD ラジカセ	
6	グローバル教養学部コモンルーム （多目的ルーム）	デスク・イス（20人分） 書棚	学生が授業の予習・復習，グループ研究の準備として使用。 参考図書，SA 関係資料を常設し，ガイダンス等で教職員も使用する。 英語を母語とする派遣職員が英語文書作成などの指導に使用する。 「英会話ラウンジ」（スピーチやコミュニケーション実践の場）として活用する。 グローバル教養学部職員が管理する。

2. 図書館等の資料及び図書館の整備計画

本学には、市ヶ谷、多摩、小金井の各キャンパスに図書館があり、三館体制で運用されている。運営には全体を統括する館長以下 2 名の副館長，ならびに図書館事務部があたっている。図書所蔵数は 3 館合せて現在約 170 万冊で、学術雑誌を主体にした定期刊行物は 20,653 種類（内国書 15,917 種類，外国書 4,736 種類）に及ぶ。また、現在の視聴覚資料の所蔵数は 3 図書館で 5,318 種類であり、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、ビデオテープ、DVD、CD-ROM が主なものとなっている。視聴覚資料については、図書館以外に学務部が語学関係などの AV 資料の収集を行っている。本学図書館では「法政大学図書館資料収集方針」（平成 13 年 4 月制定）に基づき資料選定・収集を行っているが、特色ある選書方式として、選書委員会（図書館長または副館長，各学部教員による図書選書委員，図書館管理職・主任で構成）を設け、教員と連携して蔵書構築に努めている。

本学部の設置に伴う図書、資料については、既存の図書を共用する他、不足している海外資料については、以下のように整備し充実していく計画である。

- ・初年度(平成 20 年度)までに、芸術系（映画論，写真論，音楽学）や音声学に関する専門基本図書，資料の充実をめざし，新規購入も含め，市ヶ谷図書館及びグローバル教養学部資料室における整備・充実を推進する。
- ・学術雑誌については，近年急速に電子化が進行しており，また，本学図書館もキャンパスごとの契約から，全学的な契約システムへと移行しつつある。当面，資料のようなタイトルを

閲覧可能とする。今後もこのレベルはほぼ維持されるが、タイトルは必要に応じて毎年見直しを行う。**【資料7：グローバル教養学部（GIS）購入予定学術資料】**

IT技術の発展・普及は、ジャーナルの形態に変化をもたらし、冊子体から電子ジャーナルへと転換している。本学では、平成17年3月31日現在で電子ジャーナルを15,593タイトル（欧文15,465、和文128）、データベース（以下DB）を56種類（欧文38、和文18）利用者に提供している。その電子ジャーナル・DBの契約においては、PULC（私立大学図書館コンソーシアム）に加盟し、加盟校との連携を図り、教育研究情報の適切かつ適正な市場流通と価格モデルの形成を促進することを念頭に置き、版元との契約交渉にあたっている。

このうち、平成17年度からは新たにWeb of Scienceの導入を開始し、自然分野、理工系のデータベースの充実を図った。今後、研究・教育への前項で例示した電子ジャーナル化に移行しつつある洋雑誌なども含めて、さらに環境整備を推進していく計画である。

3. 他の大学図書館等との協力

法政大学図書館は8大学が加盟する山手線沿線コンソーシアム（青山学院、学習院、國學院、東洋、明治、明治学院、立教、法政大学）に参加しており、図書館の相互利用として、加盟館の訪問利用と相互貸出を実施している。

また、洋雑誌の高騰に対応するため2003年に発足した私立大学図書館コンソーシアム（PULC）に参加し、現在東地区幹事校（早稲田、慶応義塾、明治、東京慈恵会医科、法政大学）のひとつとして版元との交渉などにあたっている。

ILLにおいては、国内外を問わず利用があり、利用紹介、文献複写申込、現物貸借申込など2004年度に3図書館合計で依頼3,190件、受付2,616件の利用があった。

国立情報学研究所（NII）との連携は多岐にわたるが、今年度は特に前述した「機関リポジトリ事業」への協力が挙げられる。この事業は、学内の研究論文（教員、大学院生など）や紀要などの電子化と公開を、国立情報学研究所（NII）が支援し、学術情報を広めることが目的である。

ケ 入学選抜の概要

グローバルな視点で多様な知見と教養を身につけ、世界中の様々な地域・社会で活躍できる人材の育成こそ、本学部の理念の目指すところである。その目標の達成には、入学者自らがこのような理念の元で組まれたカリキュラムを十分に消化し得る基本的な学力を有していること、またきめ細かな指導の下で継続的かつ能動的に勉学に励むことが必須条件である。入学選抜では、基礎学力の有無と勉学習慣を身につけているかを多様な方法で判断する。なお、本学学部の門戸は留学生にも開かれている。

全専攻科目が英語で教授される本学部の特色を鑑み、英語に関しては、とりわけ高い読解力とコミュニケーション能力が求められる。その判断材料としては、本学部が独自に作成する英語試

験の他、信頼性と正確性について国際的評価の高い TOEFL® (Test of English as a Foreign Language) や IELTS (International English Language Testing System) などの外部英語試験の結果も積極的に活用する。特に TOEFL® と IELTS は、「聞く・話す・読む・書く」という英語の 4 技能すべてを評価できるばかりでなく、世界中いつでも、どこでも、さらには何度でも受験可能という意味で、わが国の一般的な大学入学試験に勝るところも少なくない。しかしその一方で、両テストが SELHi (スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール) 指定校などを除けば、TOEIC® (Test of English for International Communication) や英検 (実用英語検定) 程はわが国の高校生の中に一般化していないことも事実である。この点を踏まえ、TOEIC® と英検の試験結果も TOEFL®, IELTS と同様に英語能力の評価基準としてこれを認める。

本学部が行う選抜方法は次の通りである。

- ・ 一般入試：本学部作成の問題により、学部教育に不可欠な基礎学力を考査する。
- ・ AO 入試：全国及び海外から優秀な学生を募集する。応募に際しては、TOEFL®, IELTS, TOEIC®, 英検のいずれかの外部試験について、過去 2 年間に本学部が指定する基準スコアに達していることを条件とする。
- ・ 付属校推薦入試：本学付属校の入学有資格者を選抜する。なお、AO 入試の場合と同様、TOEFL®, IELTS, TOEIC®, 英検のいずれかの外部試験において、基準スコアに到達していることが必要である。

帰国生・留学生のみに特化した入試は行わない。ただし、海外の教育機関や国内のインターナショナル・スクールなどの卒業生も多数入学を希望するものと予想され、そのような受験生が不利とならぬよう、選抜の際には教育制度・課程の違いについて十分な配慮を行う。

コ 教員の資質の維持向上の方策

教育の内容及び方法の改善を図るため、本学では 2003 年 11 月に「全学 FD 推進委員会」を設置しさらに、2005 年 4 月には、より先進的な FD 活動へ発展させる全学的要求の高まりから、「FD 推進センター」を設置し、新たな展開へと踏み出した。さらに、2005 年 9 月には計算科学研究センターを改組して情報メディア教育研究センターとし、教員の IT を活用した教育方法の改善に対する支援体制を整えた。また 2004 年度よりほぼ全ての科目について学生による授業評価アンケートが実施されており、9 割程度の高実施率となっている。アンケートの分析結果は各科目担当教員に個別に提供され、教員はそれに基づいて授業上の問題点を分析すると同時に改善策を検討・実施に移すこととなっている。また、教員が実際の授業を参観して、そのやり方や工夫について相互に学ぶため、法政大学 FD 推進センターが中心となり、学生による評価が高かった授業を含め様々な授業に対する教員の「授業参観」を実施している。また、FD 推進センターとして「特色ある FD への取組み助成」として、学内教員からの申請を受付・審査を経て、経費支援を行っている。

上記の全学的な FD 活動に加え、教育方法の改善に向けた本学部独自の試みも多数用意してい

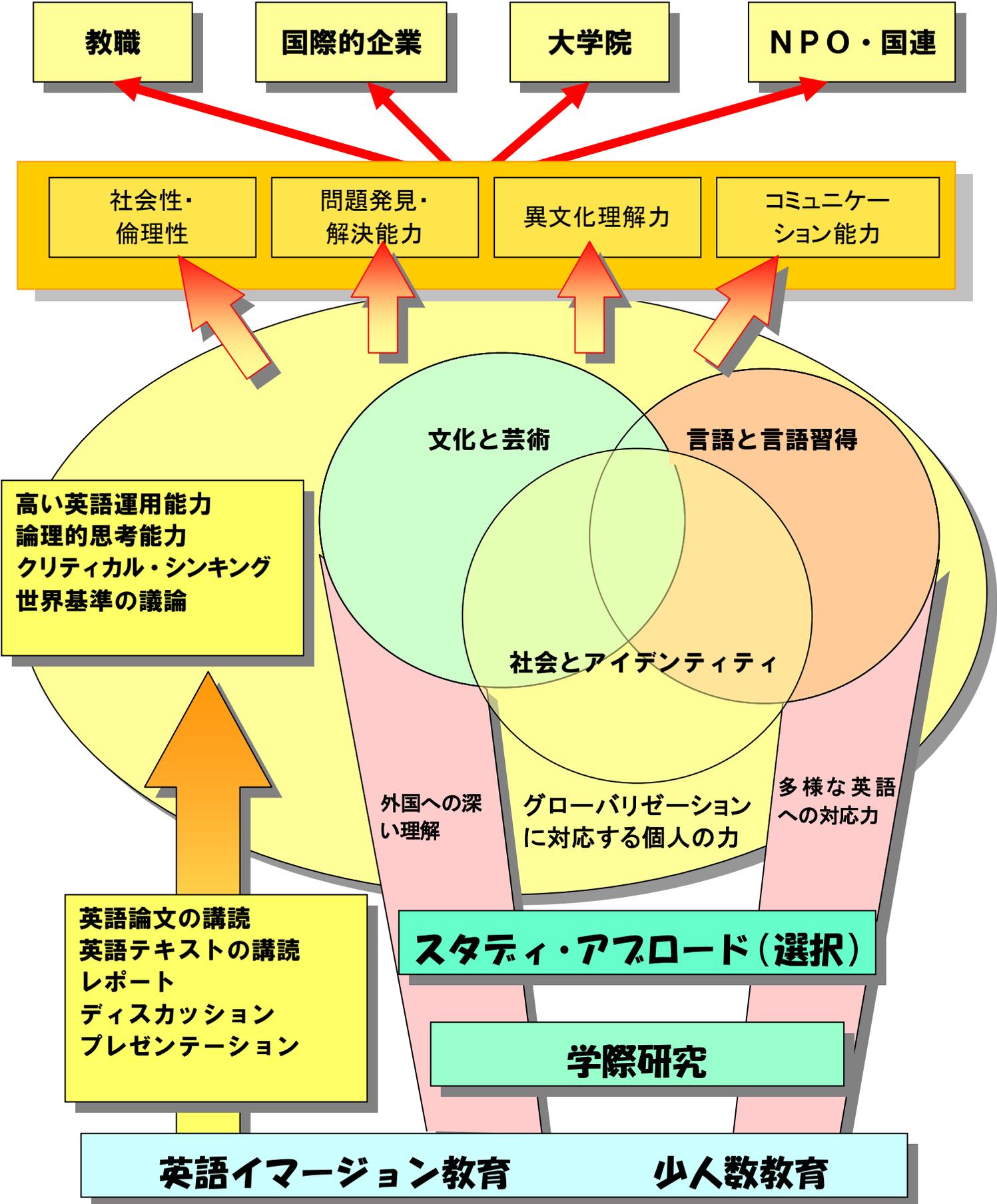
る。全科目を英語により教授することは本学部の教育の根幹であり、英語イマージョン教育の拡充・向上は常に最大の関心事である。そのため、本学部生に対して行われる授業評価アンケートには、授業内の英語の効果的運用に関する質問事項を重点的に加えている。また、教職員と学生が授業内容はもとより、学生生活一般や留学等についても、膝を交えて気軽に話し合える場として、「グローバル教養学部（GIS）コモンルーム」を常設している。ここでの会話を通して、アンケート結果とそれに対する対応は、すぐにフィードバックされるであろう。一方、本学部では、学生による評価結果に関わらず、教員同士で随時「授業参観」を行う。これは、学際研究・教育を謳う本学部の教員にとって、教室の運営技術面のみならず、隣接科目の最新の動向を捉える機会としても極めて有用である。

研究・教育活動に関わる様々な財政的支援、教員の国内外留学支援、国内の教育改善関連の研修会やシンポジウム等への教員の派遣支援等が全学的に実施されている。専任教員が個人で行う研究活動を助成し、学術研究の充実を図るものとして個人研究費が支給されており、現在、金額は、教授、准教授、助教を対象とし年額 22 万円となっている。この他に、学会参加のための旅費として、国内は交通費、宿泊料、弁当料が支給され、国外は、渡航費用の補助がある。国内は、年間 2 学会、国外は 1 学会、さらに、学会の役員、報告者、司会者として出席する場合は 1 年間 1 学会までが補助の対象となる。1 年間の通算支給の限度は 30 万円となっている。

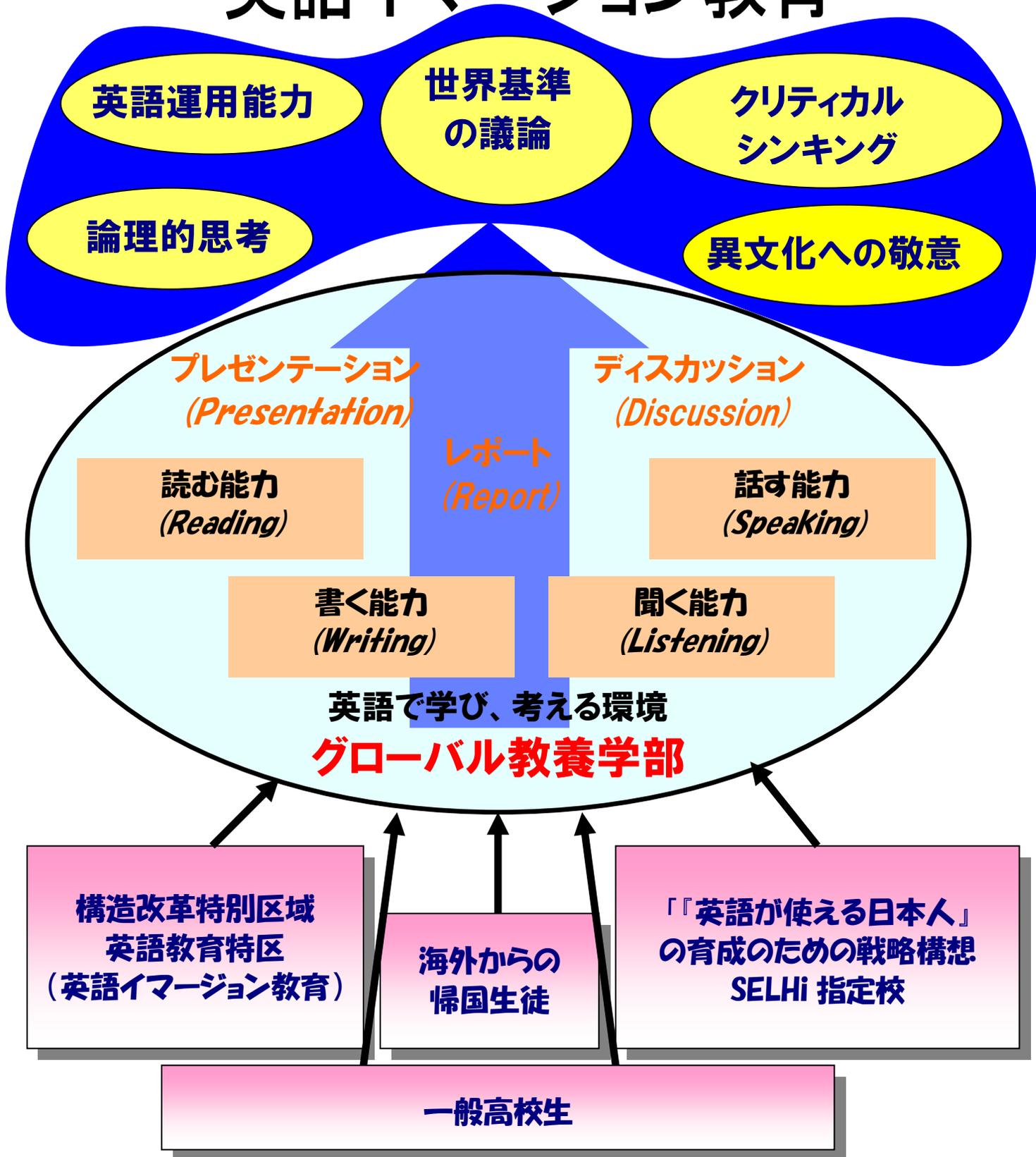
研究活動に必要な研修機会として、在外研究員および国内研究員制度がある。在外研究員として毎年長期（1 年間）、短期（半年間）の枠があり、長期を短期 2 名と振り分けることも可能となっている。在外研究員の旅費（渡航費、宿泊費等）として長期は 330 万円を限度に、短期は 195 万円を限度に支給される。国内研究員（1 年間）は全学部で 2 年間に 37 名以内、一人当たり補助額は 25 万円を限度としている。

以上

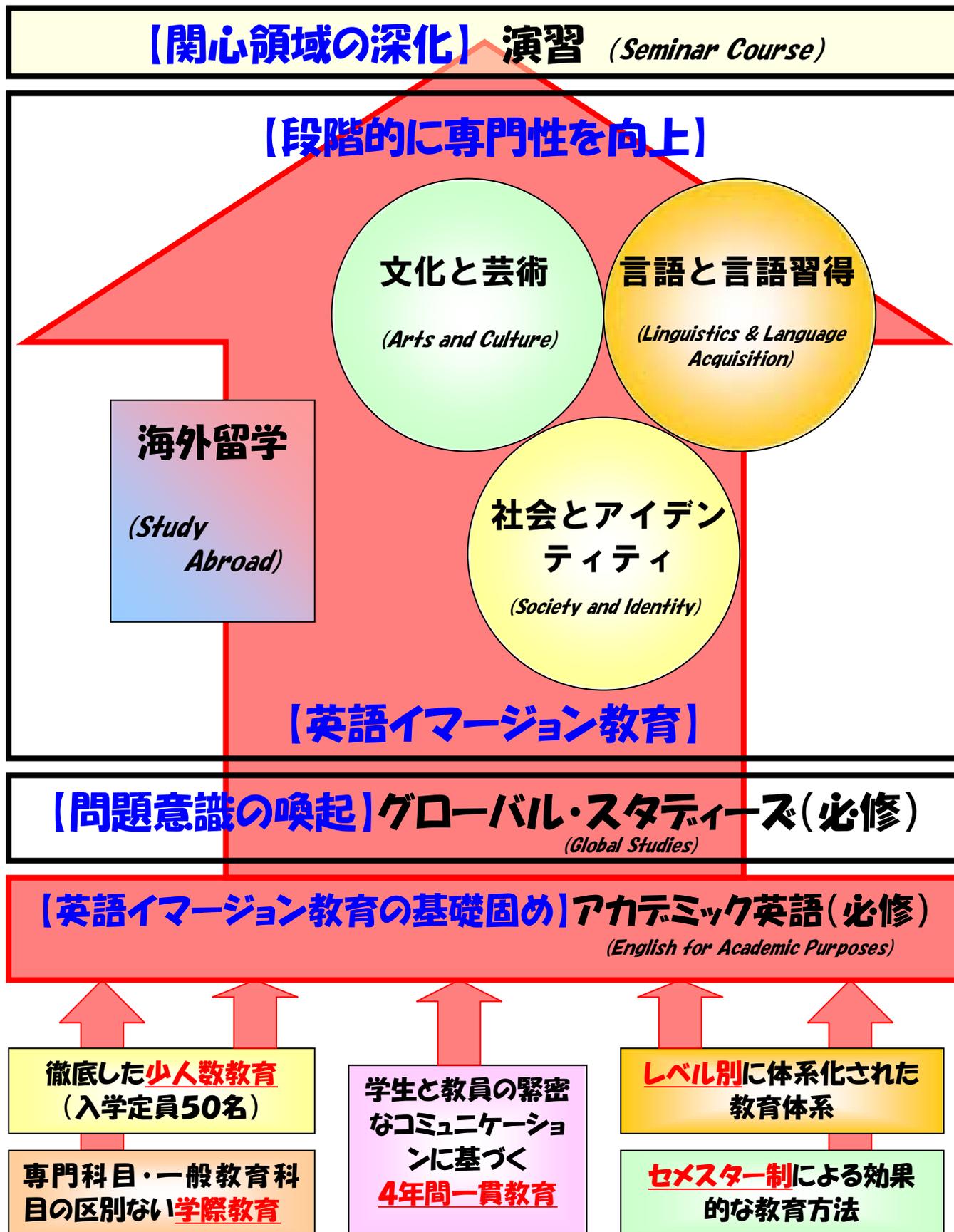
グローバル教養学部概念図



グローバル教養学部における 英語イマージョン教育



グローバル教養学部における学び



400-level Seminar Course		
Seminar		
Society and Identity	Arts and Culture	Linguistics & Language Acquisition
300-level Advanced Courses		
Gender: A Perspective on Japanese Society Asian America Youth and Schooling* Religious Thought and Society Mass Media Research Cultural Psychology Research in Social Psychology	Asian Culture and Literature II European Views of Japan Topics in Contemporary Art Learning Japanese Art History through Contemporary Media Film Studies II	Comparative Linguistics Morphology: Building Words ESL Education IV: Testing and Evaluation English in the Classroom Translation Workshop
Special Topics I		Special Topics II
200-level Intermediate Courses		
Race, Class and Gender I Race, Class and Gender II Issues in Family and Sexuality* Education and Society Crime and Deviance Interpersonal Relations I Interpersonal Relations II Media Processes and Effects Environment and Development Intercultural Ethics Intercultural Perspectives I Intercultural Perspectives II	Asian Culture and Literature I Drama Workshop Studies in Poetry Cultural Studies Film Studies I Fact and Fiction in the Movies Japanese Popular Culture Contemporary Art and Media in the Asia-Pacific Region Marginalized Voices I Marginalized Voices II Western Philosophy	Structures of English I: Syntax and Morphology Structures of English II: Phonetics and Phonology English around the World Language in Society Applied Linguistics ESL Education II: Teaching Methodology ESL Education III: Syllabus Design and Teaching Materials History of English Studies in Japan
Study Abroad (SA)		
100-level Introductory Courses		
Understanding Society Social Research in Practice Understanding the Human Mind I Understanding the Human Mind II Media and Communication Studies Regional Studies A Regional Studies B	Readings in World Literature Introduction to English Literature Studies in Popular Fiction Drama Survey Music and Media Visual Arts I Visual Arts II Introduction to Animation Art Japanese Art and History World History since the 13 th Century	Introduction to Linguistics Contrastive Linguistics ESL Education I: Introduction Second Language Acquisition Spanish A I Spanish A II Spanish B I Spanish B II Chinese A I Chinese A II Chinese B I Chinese B II
100-level Foundation Courses		
Core Subject Global Studies		
EAP Subjects		Adjunct Subjects
English for Academic Purposes A I English for Academic Purposes B I English for Academic Purposes C I English Test Preparation I	English for Academic Purposes A II English for Academic Purposes B II English for Academic Purposes C II English Test Preparation II	Information Technology I Information Technology II Website Construction Statistics Debate Public Speaking Critical Thinking Law I (Including the Japanese Constitution) Law II (Including the Japanese Constitution) Physical Education I Physical Education II

履修モデル 1-1 (民間企業就職希望者)

養成人材像:企業(海外展開型の企業、多国籍・外資系企業、航空、旅行、観光業など)に入り、高い英語運用能力とコミュニケーション能力と異文化理解力を生かす。

	1年次			2年次			3年次			4年次			合計
	科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		
		必修	選択		必修	選択		必修	選択		必修	選択	
基礎科目	English for Academic Purposes A I	2		Information Technology I		2							
	English for Academic Purposes A II	2		Information Technology II		2							
	English for Academic Purposes B I	2											
	English for Academic Purposes B II	2											
	English for Academic Purposes C I	2											
	English for Academic Purposes C II	2											
	Website Construction		2										
	Law I (Including the Japanese Constitution)	2											
	Law II (Including the Japanese Constitution)	2											
	Physical Education I	2											
	Physical Education II	2											
	Global Studies	2											
入門科目	Understanding the Human Mind I		2	Media and Communication Studies		2	Visual Arts I		2				
	Understanding the Human Mind II	2		Social Research in Practice	2		Visual Arts II	2					
	Understanding Society	2		Chinese B I	2								
	Chinese AI	2		Chinese B II	2								
	Chinese AII	2		Studies in Popular Fiction	2								
	Regional StudiesA	2											
中級科目	Education and Society		2	Interpersonal Relations I		2	Intercultural Ethics		2	Intercultural Perspectives I		2	
				Interpersonal Relations II		2	Study Abroad	16		Intercultural Perspectives II		2	
				Cultural Studies		2							
				Film Studies I		2							
				Media Processes and Effects		2							
				Japanese Popular Culture		2							
				Race, Class and Gender I		2							
				Race, Class and Gender II		2							
				Environment and Development		2							
				Marginalized Voices I		2							
上級科目				Asian America		2	Youth and Schooling		2	Research in Social Psychology		2	
							Gender: A Perspective on Japanese Society		2	Mass Media Research		2	
							Cultural Psychology		2	Translation Workshop		2	
演習科目							Seminar		2	Seminar		2	
							Seminar		2	Seminar		2	
										Seminar		2	
										Seminar		2	
モデル単位数		14	24		0	36		0	32		0	18	124
		38			36			32			18		

卒業要件	基礎科目 (100-level Foundation Courses)	28単位以上
	入門科目 (100-level Introductory Courses)	24単位以上
	中級科目・上級科目 (200-level Intermediate Courses/300-level Advanced Courses)	32単位以上
	演習科目	
	(入門科目・中級科目・上級科目を合わせて96単位以上)	

履修モデル 1-2 (マスコミ・ジャーナリズム)

養成人材像: 日本の芸術・文化についての造詣を深め, 高度な英語運用力を駆使し, 世界を舞台に活躍する行動派の日本文化アナリスト

	1年次			2年次			3年次			4年次			合計	
	科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数			
		必修	選択		必修	選択		必修	選択		必修	選択		
基礎課程	English for Academic Purposes A I	2		English Test Preparation I		2								
基礎科目	English for Academic Purposes A II	2		English Test Preparation II		2								
	English for Academic Purposes B I	2		Information Technology II		2								
	English for Academic Purposes B II	2												
	English for Academic Purposes C I	2												
	English for Academic Purposes C II	2												
	Law I(Including the Japanese Constitution)		2											
	Law II(Including the Japanese Constitution)		2											
	Physical Education I		2											
	Information Technology I		2											
	Global Studies		2											
入門科目	World History Since the 13th Century		2	Media and Communication Studies		2	Introduction to Animation Art		2					
	Japanese Art and History		2	Understanding the Human Mind I		2								
	Visual Arts I		2	Understanding the Human Mind II		2								
	Visual Arts II		2	Second Language Acquisition I		2								
	Understanding Society		2	Second Language Acquisition II		2								
	Regional Studies A		2	Regional Studies B		2								
中級科目				Cultural Studies		2	Intercultural Perspectives I		2	Western Philosophy		2		
				Film Studies I		2	Intercultural Perspectives II		2	Interpersonal Relations I		2		
				Japanese Popular Culture		2	Language in Society		2	Interpersonal Relations II		2		
				Asian Culture and Literature I		2	Fact and Fiction in the Movies		2	Contemporary Art and Media in the		2		
				Media Processes and Effects		2	History of English Studies in Japan		2	Asia-Pacific Region				
				Intercultural Ethics		2	Drama Workshop		2					
							Marginalized Voices I		2					
							Marginalized Voices II		2					
上級科目				Topics in Contemporary Art		2	Film Studies II		2	Mass Media Research		2		
				Asian Culture and Literature II		2	Translation Workshop		2	Special Topics I		2		
				Learning Japanese Art History		2	Gender: A Perspective on Japanese Society		2	Special Topics II		2		
				Through Contemporary Media			Asian America		2					
							European Views of Japan		2					
演習科目							Seminar		2	Seminar		2		
							Seminar		2	Seminar		2		
										Seminar		2		
										Seminar		2		
モデル単位数		14	20		0	36		0	32		0	22		124
		34			36			32			22			

卒業要件

基礎科目 (100-level Foundation Courses) 28単位以上

入門科目 (100-level Introductory Courses) 24単位以上

中級科目・上級科目 (200-level Intermediate Courses/300-level Advanced Courses) 32単位以上

演習科目

(入門科目・中級科目・上級科目を合わせて96単位以上)

履修モデル 1-3 (英語教員志望者)

養成人材像: 中等教育機関において「使える英語」の教育を念頭に、英語イメージ教育の立案・推進にも積極的に参与できる英語教員志望者

	1年次			2年次			3年次			4年次			合計	
	科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数			
		必修	選択		必修	選択		必修	選択		必修	選択		
基礎科目	English for Academic Purposes A I	2		Public Speaking		2								
	English for Academic Purposes A II	2												
	English for Academic Purposes B I	2		Debate		2								
	English for Academic Purposes B II	2												
	English for Academic Purposes C I	2												
	English for Academic Purposes C II	2												
	Website Construction		2											
	Law I(Including the Japanese Constitution)		2											
	Law II(Including the Japanese Constitution)		2											
	Physical Education I		2											
	Physical Education II		2											
	Global Studies		2											
入門科目	Understanding the Human Mind I		2	Media and Communication Studies		2				Readings in World Literature		2		
	Understanding the Human Mind II		2	Contrastive Linguistics		2								
	Introduction to English Literature		2	Regional Studies B		2								
	Introduction to Linguistics		2											
	Second Language Acquisition I		2											
	Second Language Acquisition II		2											
	Regional Studies A		2											
中級科目				Education and Society		2	Intercultural Ethics		2	Marginalized Voices I		2		
				Interpersonal Relations I		2	Intercultural Perspectives II		2					
				Cultural Studies		2	Fact and Fiction in the Movies		2					
				Film Studies I		2	Applied Linguistics		2					
				Structures of English I		2	Western Philosophy		2					
				Structures of English II		2	Study Abroad		12					
				ESL Education I		2								
				ESL Education II		2								
				English around the World		2								
				Language in Society		2								
				History of English Studies in Japan		2								
上級科目				Youth and Schooling		2	Irish Literature and Culture		2	Asian America		2		
				Cultural Psychology		2	ESL Education III		2	Research in Social Psychology		2		
							English in the Classroom		2	Film Studies II		2		
							Special Topics I		2	Translation Workshop		2		
演習課程							Seminar		2	Seminar		2		
							Seminar		2	Seminar		2		
モデル単位数		14	24		0	36		0	34		0	16		124
		38			36			34			16			

卒業要件	
基礎科目 (100-level Foundation Courses)	28単位以上
入門科目 (100-level Introductory Courses)	24単位以上
中級科目・上級科目 (200-level Intermediate Courses/300-level Advanced Courses)	32単位以上
演習科目	
(入門科目・中級科目・上級科目を合わせて96単位以上)	

履修モデル 1-4 (海外大学院進学希望者)

養成人材像：英語圏の大学院で社会学を専攻し、アニメや漫画等のポップカルチャーを含め、日本文化の海外での受容について研鑽を深める若手研究者

	1年次			2年次			3年次			4年次			合計
	科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		科目名	単位数		
		必修	選択		必修	選択		必修	選択		必修	選択	
基礎科目	English for Academic Purposes A I	2		Critical Thinking		2							
	English for Academic Purposes A II	2		Statistics		2							
	English for Academic Purposes B I	2											
	English for Academic Purposes B II	2											
	English for Academic Purposes C I	2											
	English for Academic Purposes C II	2											
	Website Construction		2										
	Law I(Including the Japanese Constitution)		2										
	Law II(Including the Japanese Constitution)		2										
	Physical Education I		2										
	Physical Education II		2										
	Global Studies		2										
入門科目	Understanding the Human Mind I		2	Media and Communication Studies		2	Visual Arts I		2				
	Understanding the Human Mind II		2	Spanish A I		2	Visual Arts II		2				
	Understanding Society		2	Spanish A II		2							
	Social Research in Practice		2	Spanish B I		2							
	Regional StudiesA		2	Spanish B II		2							
				Studies in Popular Fiction		2							
中級科目	Education and Society		2	Interpersonal Relations I		2	Intercultural Ethics		2	Intercultural Perspectives I		2	
	Crime and Deviance		2	Interpersonal Relations II		2	Marginalized Voices II		2	Intercultural Perspectives II		2	
				Cultural Studies		2	Study Abroad		14				
				Film Studies I		2							
				Media Processes and Effects		2							
				Japanese Popular Culture		2							
				Race, Class and Gender I		2							
				Race, Class and Gender II		2							
				Marginalized Voices I		2							
上級科目				Asian America		2	Film Studies II		2	Research in Social Psychology		2	
				Cultural Psychology		2	Gender: A Perspective on Japanese Society		2	Mass Media Research		2	
							Youth and Schooling		2				
演習科目							Seminar		2	Seminar		2	
							Seminar		2	Seminar		2	
										Seminar		2	
										Seminar		2	
モデル単位数		14	24		0	38		0	32		0	16	124
		38			38			32			16		

卒業要件	基礎科目 (100-level Foundation Courses)	28単位以上
	入門科目 (100-level Introductory Courses)	24単位以上
	中級科目・上級科目 (200-level Intermediate Courses/300-level Advanced Courses)	32単位以上
	演習科目	
	(入門科目・中級科目・上級科目を合わせて96単位以上)	

グローバル教養学部（GIS）卒業要件

科目区分	授業科目		単位規定	
GIS 基礎科目	基幹科目 (Core Subject) (100-level Foundation Course)		2 単位必修	
	EAP 科目 (EAP Subjects) (100-level Foundation Course)	アカデミック英語 (EAP)	12 単位必修	
		選択英語 (Elective English)	14 単位まで卒業所要単位 に充足可	
	拡充科目 (Adjunct Subjects) (100-level Foundation Course)		28 単位以上	
GIS 専門科目	入門科目 (Introductory Subjects) (100-level Introductory Course)		24 単位以上	
	中級科目 (Intermediate Subjects) (200-level Intermediate Course)		32 単位以上	
	上級科目 (Advanced Subjects) (300-level Advanced Course)		96 単位以上	
	演習科目 (Seminars) (400-level Seminar Course)		8 単位以上	
	GIS SA		20 単位まで卒業所要単位 に充足可	
	他の海外留学取得単位		GIS SA と合わせて 60 単位ま で卒業所要単位に充足可	
卒業所要単位合計			124 単位以上	

No.	Title
1	Dictionary of Languages: The Definitive Reference to More Than 400 Languages, by Andrew Dalby. Columbia UP,
2	Longman Grammar of Spoken and Written English, by Douglas Biber et al. Longman,
3	The Atlas of Languages: The Origin and Development of Languages Throughout the World, by Stephen Matthews and Maria Polinsky Facts on File,
4	The Cambridge Grammar of the English Language, by Rodney Huddleston and Geoffrey K. Pullum. Cambridge UP
5	The Chicago Manual of Style. U Chicago P,
6	The World's Major Languages, by Bernard Comrie. Oxford UP,
7	Guardian Weekly
8	CSS: The missing manual, by David Sawyer McFarland. O'Reilly, 2005. ISBN 978-0596526870
9	Excel 2007: The missing manual, by Matthew MacDonald. O'Reilly,
10	Google: The missing manual, by Sarah Milstein, JD Biersdorfer, Matthew MacDonald. O'Reilly,
11	Mac OS X: The missing manual, by David Pogue. Tiger edition. O'Reilly,
12	Photoshop Elements 5: The missing manual, by Barbara Brundage. O'Reilly,
13	Sams Teach Yourself OpenOffice.org 2, Firefox and Thunderbird for Windows. Sams,
14	The OpenOffice.org 2 Guidebook, by Solveig Haugland. Solveig Haugland,
15	Ubuntu Linux for Non-Geeks: A Pain-Free, Project-Based, Get-Things-Done Guidebook. By Rickford Grant. No Starch,
16	Windows Vista: The missing manual, by David Pogue. O'Reilly,
17	Word 2007: The missing manual, by Chris Grover. O'Reilly,
18	Embracing defeat: Japan in the wake of World War II, by John W. Dower. Norton,
19	Forty Studies that Changed Psychology: Explorations into the History of Psychological Research, by Roger R. Hock. 5th ed. Prentice Hall,
20	Phonetic Symbol Guide, by Geoffrey K. Pullum and William A Ladusaw. 2nd ed. U Chicago P,
21	Research Methods and Statistics in Psychology, by Hugh Coolican. 4th ed. Hodder Arnold,
22	The 20th-century Art Book. Phaidon 0 7148 3542 0
23	The Art Book. Phaidon.
24	The Photography Book. Phaidon,
25	Photography in Japan 1853-1912
26	Magnum Stories
27	FSA: The American Vision
28	Picture Machine: The Rise of American Newspictures
29	Japan: A Self Portrait
30	Seizing the Light: A History of Photography
31	Oxford Companion to the Photograph
32	The Photobook: A history (vol 1)
33	The Photobook: A history (vol 2)
34	A World History of Photography
35	Icons of photography: The twentieth century
36	The History of Japanese Photography
37	Vitamin Ph: New perspectives in photography
38	Photography of the 20th Century
39	A History of Photography: From 1839 to the present
40	Language Myths
41	Case
42	Routledge Dictionary of Language and Linguistics
43	English Phonetics and Phonology: An Introduction
44	A Practical Introduction to Phonetics
45	Tense
46	Aspect
47	Agreement
48	Number

No.	Title
50	Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics
51	Gimson's Pronunciation of English
52	English Phonology
53	Second Language Syntax
54	Child Language: Acquisition and growth
55	Definiteness
56	The Syntactic Phenomena of English
57	Language Matters: A Guide to Everyday Questions about Language
58	Contemporary Linguistics: An Introduction
59	Mood and Modality
60	The Language Instinct
61	Word-Formation in English
62	English Syntax
63	English Phonetics and Phonology Audio CD: A Practical Course
64	English Phonetics and Phonology: A Practical Course
65	Semantics
66	Person
67	A Dictionary of Phonetics and Phonology
68	A Student's Dictionary of Language and Linguistics
69	A Dictionary of Grammatical Terms in Linguistics
70	The Penguin Dictionary of English Grammar
71	The Dictionary of Historical and Comparative Linguistics
72	An Introduction to Japanese Linguistics
73	Second Language Acquisition and Universal Grammar
74	Closing the Shop: Information cartels and Japan's mass media
75	The Nurture Assumption
76	War Photographer
77	Control Room
78	The Corporation
79	Discovering Statistics Using SPSS
80	The Cambridge Dictionary of Statistics
81	The Visual Display of Quantitative Information
82	Envisioning Information
83	Visual Explanations: Images and Quantities, Evidence and Narrative
84	Cartoon Guide to Statistics
85	Show Me the Numbers: Designing Tables and Graphs to Enlighten
86	PDQ Statistics
87	SPSS Survival Manual
88	The Cognitive Style of PowerPoint: Pitching Out Corrupts Within
89	The Sage dictionary of social research methods
90	The Complete Idiot's Guide to Statistics
91	Key Concepts in Language and Linguistics
92	Key Concepts in Language and Linguistics
93	A Dictionary of Language
94	Statistics: An Introduction using R
95	Using R for Introductory Statistics
96	Introducing Phonetic Science
97	Introducing Linguistic Morphology

98	Language Matters
99	An Introduction to English Morphology

資料7-3

No.	Title
100	A Glossary of Morphology
101	The Sounds of the World's Languages
102	How Languages Are Learned
103	Introducing Phonology
104	Exploring Language Structure
105	The Five-Minute Linguist
106	Introducing Second Language Acquisition
107	Contemporary British Society
108	Cruel and Tender: The Real in the 20th Century Photograph
109	Modern Spanish Grammar: A Practical Guide
110	A New Reference Grammar of Modern Spanish
111	Basic Spanish: Grammar and Workbook
112	Intermediate Spanish: Grammar and Workbook
113	Collins Spanish Dictionary
114	Basic Chinese: A Grammar and Workbook
115	Intermediate Chinese: A Grammar and Workbook
116	Oxford Chinese Dictionary
117	Far East Chinese-English Dictionary
118	An Inconvenient Truth: The Crisis of Global Warming
119	The Oxford Companion to the Mind
120	1001 Songs
121	Masters of American Comics
122	Tokyo for Free
123	12 Angry Men